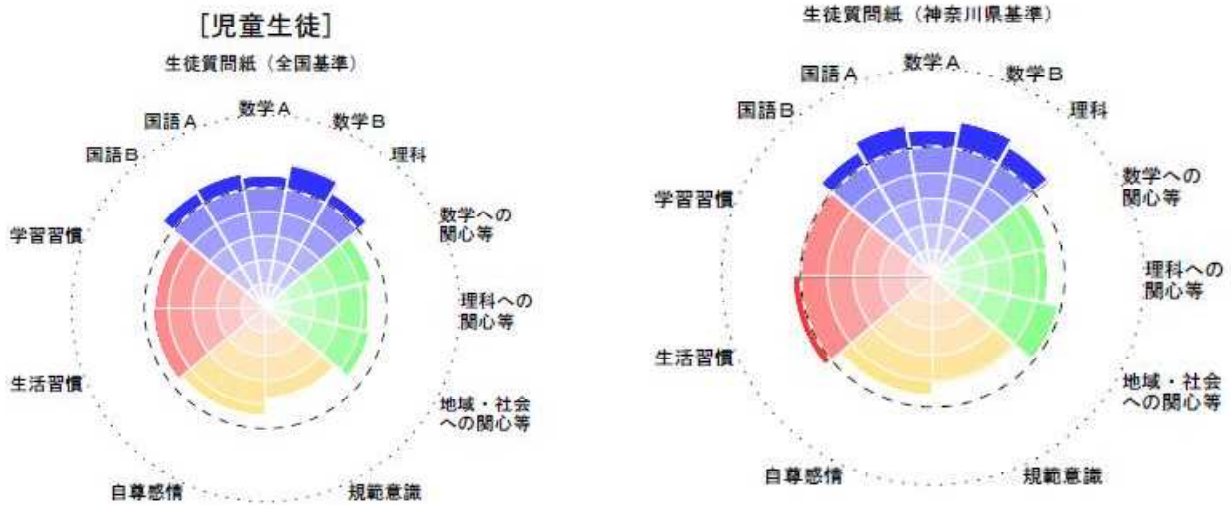


平成30年度 全国学力・学習状況調査報告

日吉台西中学校



※ 上のグラフの点線の円は、全国の平均正答率を示し、色の扇形の大きさは、本校の生徒の正答率を示している。

《 学力調査および生徒質問紙の結果のグラフより 》

	本校 (%)	神奈川県 (%)	全国 (%)
国語A (知識)	79	76	76.1
国語B (活用)	64	62	61.2
数学A (知識)	69	66	66.1
数学B (活用)	55	48	46.9
理科	69	66	66.1

学力調査については、国語A、B、数学A、B、理科、全て全国、神奈川県の前を抜いている。

国語A (主として知識) では各観点別に見ても正答率は上回っているが、細かく問題別に見ると、問題7-1「場面にはまる語句の意味として適切なものを選択する」で「ハナイカダ」を選択する問題が(本校85.7、全国87.3)と若干下回っている。また、漢字の書く問題で「タバねる」「ユルす」も2%弱下回っていることが分かった。また、「適切な語句を選択する(彼女はせきを切ったように話し始めた)」の問題が(本校17.3、全国29.2)と下回っている。これらのことから、語彙を豊かにしていくことと、その適切な使い方について理解できるように、改善支援していく必要がある。

国語B (主として活用) でも「文章中の表現について語った人物として適切なものを選ぶ」や「話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く」の問題で若干下回っている。

国語ABに共通しているのは、「言語についての知識・理解・技能」の観点の問題が下回っている点だ。これらに関しては、授業の中で「基本的な漢字能力の習得を目指し、文脈にあった語彙の選択や、文章が相手に的確に伝わるよう書く力をつける。」ことに重点をおき、言語活動を多く取り入れて力を伸ばすよう支援していくことが必要である。

数学A (主として知識) の内容を見ると、「数量や図形についての知識理解」「数学的な技能」の観点の問題で下回っていることがわかった。作図や図形についての内容についてもう一度見直す必要がある。

理科では、活用に関する問題がよく解けており、理解されていることが分かる。計算を含む問題について丁寧に取り組む必要があると考えられる。

状況調査では、学習習慣、生活習慣、地域・社会へ関心等のなどは、ほぼ県平均である。

学習習慣において、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問では、「している、どちらかといえばしている」では県、全国を上回っている。学習計画の定着が進んでいることが見受けられる。

規範意識について、「学校の規則を守る。」「いじめはどんな理由があってもいけない。」という設問に対して「当てはまる、どちらかと言えば当てはまる」が92~93%になっており、本校生徒は学校のルールを守り、明るく生活していると考えられる。